

ウミガメたちが

たどりつく感動岬に。

室戸阿南海岸国定公園に位置する蒲生田(かもだ)岬は四国最東端の岬だ。橋湾をはさみふたつある岬の南側は、ウミガメの産卵地としても有名。岬の灯台に立つて眺める水平線の彼方から、すごいエネルギーを感じられることだろう。

徳島市街地から南下、
岬を目指そう。

蒲生田岬へは国道55号で市街地を抜けて南下、表示を手掛かりに半島の道を目指そう。緩やかでアップダウンも少なくドライブは快適。時間もさほどかからない。シンボルモニュメントの「波の詩」が見えたら目的地の岬に到着。



灯台入口にある駐車場にクルマを止め、山の緑と潮風を身近に感じながら、散歩感覚で灯台まで行ける。遊歩道の広場で二服とりながらゆっくり回り込むのがオススメだが、健脚なら約40メートルの石段に挑戦するのもいい。灯台からは雄大な太平洋の白い波しづきが美しい。天気がよければ遠く和歌山の「日の岬」や大鳴門橋、淡路島まで見通せる。この大海原をウミガメたちが泳いできたかと思うと感動だ。

釣り場探しは 対岸の橋泊で。

絶景に感激したあと、時間が許すなら半島の北側、

対岸に見える漁師町・橋泊(つばきどまり)を訪ねてみたい。かつては阿波水軍の大將だった森家の拠点として栄えた由緒を持つ。釣り糸を垂らすのにもいいポイントがある。ただ海と山が迫る

地形のため漁港が近づくにつれ道幅が狭まり、かなり慎重にハンドルを握りたい。大型車の乗り入れは控えたい。絶景とノスタルジックな気分。蒲生田岬の旅は異なる魅力で楽しませてくれる。



岬の立ち寄りスポット



道の駅「公方の郷なかかわ」

ドライブのひと休みなら、バイパス55号に面したここがオススメ。地元の新鮮野菜や魚介類に阿南市はじめ、徳島の名物、特産品が勢ぞろいする。情報コーナーもあり、休憩を兼ねて蒲生田岬に向かう前に観光情報を仕入れるのにもいい。
●阿南市那賀川町工地803
☎0884-21-2631



橋泊(つばきどまり)の町並み

蒲生田岬の北対岸にある橋泊は、阿波水軍の城下町だったところ。蜂須賀氏に仕えた森氏二代目の村春が「松鶴城」を築き、朝鮮出兵や大阪冬の陣で活躍したエピソードが残る。いまはハモ、タチウオ、伊勢海老漁が盛ん。湾内の穏やか風景を眺めながら、釣り糸を垂らすのも一興だ。



日和佐うみがめ 博物館カレッタ

蒲生田岬からさらに南に走れば、ウミガメの産卵地として有名な日和佐がある。カレッタは、「自然と人間の共存」をテーマにした世界でも珍しいウミガメの博物館だ。ウミガメの進化の過程をはく製などでわかりやすく展示するほか、生きたウミガメの生態を観察できる水槽もある。大浜海岸の景観もすばらしい。
●海部郡美波町大浜海岸 ☎0884-77-1110

岬でひと風呂



かもだ岬温泉保養センター

岬に向かう道の高台にある。やわらかな泉質を持つ天然温泉で、自慢の露天風呂では、開放感いっぱいには大小さまざまな島と雄大な太平洋を眺めながらこちらから寛げる。
●阿南市椿町船瀬60-2
☎0884-21-3030

ついでにちよっと! 小腹グルメ

「あ!なんバーガー」が旨い!
フライした地元特産のシラスと自家製タルタルソースが絶妙な取り合わせ。パンズのかわりにナンでサンドしたご当地バーガーは、味はもちろん、シャレ気もいい。かもだ岬温泉で味わえる。



恋人岬の遊歩道

灯台に向かう入り口には岬の碑「かもだ石」がある。この場所に波と風をテーマにしたモニュメント「波の詩」が設置されてから、そのハート型の大穴にふたりで腰をかければ愛がかなうと口コミで広がり、蒲生田岬には「恋人岬」の呼び名が加わった。オススメのフォトスポットだ。

●写真提供/阿南市

四国最東端、ウミガメの岬

蒲生田岬

ドライブデータ ●大阪/神戸方面から「神戸淡路鳴門自動車道」利用、195.8km/164.3km
●広島・岡山方面から「瀬戸中央自動車道」利用、329.4km/196.0km
※出発地中心部から灯台周辺までの距離

📷=ビューポイント 🏠=釣りポイント 🍽️=食事・お土産・休憩所 🌡️=温泉

未知にであう道をいこう
徳島県
阿南市

